

＜ もくじ ＞	
1. 2016年「年頭の辞」	1
2. 今年度連続講座第5回、第6回の受講申し込み受付中です	2
3. 第2回研究会合同イベント“丁々発止語り合う会”開催と参加申込みのご案内	2～3
4. 第2回シンポジウム「あれから5年～私たちはフクシマを忘れない」概要報告	3～4
5. 研究会からのお知らせ	4～5
6. 学会機関誌「エイジレスフォーラム」第14号掲載原稿募集	5

## 1. 2016年「年頭の辞」

明けましておめでとうございます。新しい年を皆様はどのようにお迎えになりましたか。

昨年は戦後70年の節目の年でした。各地で戦争体験者から話を聞く機会が設けられ、いくつかの大学の研究室では、先輩たちから戦争体験を聞き取り、記録するプロジェクトが進められるようになりました。兵士として戦地に赴いた人たちは、80代後半から90代。今がその体験を聞く、最後のチャンスかもしれません。指揮官ではなく、一兵卒として参戦した人たちの体験は、悲惨なものでした。兵器も食糧も十分になく、野草、蛙、蛇、とかげ、時には人肉を食べてまで生き延びました。こうした体験を経た人たちが、こぞって口にするのは、平和の大切さであり、二度と戦争を繰り返してはならないということなのです。

昨秋には、安全保障関連法が成立し、日本は戦争のできる国へと第一歩を踏み出すことになりました。安保法案の成立を阻止しようとしてデモに参加する若者たちを指して、「戦争に行きたくないだけでしょ」とつぶやいた自民党議員がいます。「あなたは、戦争に行きたいですか」とその議員には問いかけたいものです。戦時中、徴兵された若者たちは、心の中では行きたくないと思っても、口に出すことは許されませんでした。現在の日本が、まだ「戦争に行きたくない」と言える社会であることを有難く思います。

現在の日本が、戦前に似てきたということをよく耳にします。マスメディアへの自民党の露骨な干渉、現政権に批判的な文化人のテレビ出演の減少、小学校の図書室や公立図書館からの特定の書物の撤去、反政府的な立場を明確にする団体に部屋を貸さない自治体など。昨年末に亡くなった野坂昭如さんは、「戦後民主主義が圧殺されていく」と述べていましたが、気が付いてみると言論の自由が、しだいに失われていきます。

安倍晋三首相は、「戦後70年談話」を発表したことで、戦後の総括は終わったと思っているかもしれませんが、しかし、本当の戦後が始まったのは、1946年の日本国憲法の公布からと言っていいでしょう。女性にとっては、家族内の男女不平等の解消を明記した1947年の民法改正からが、本当の戦後なのかもしれません。「戦後」は、まだまだ続くのです。

シニア社会学会では、昨年3回にわたって、「戦後70年」をテーマに小規模な話し合いの機会を持ちました。今後も同じような試みを継続していくつもりです。戦争のない社会の実現に向けて、シニアの経験と知識を活かしていきたいと思っております。

2016年1月

一般社団法人シニア社会学会会長 袖井孝子



## 2. 今年度連続講座第5回、第6回の受講申し込み受付中です

(1) 第5回講座の受講のお申し込みをお待ちしています。

◆第5回講座は、2016年1月23日(土)開催です。◆

講演テーマ：「あなたらしい葬儀と墓」

講師：荒井 浩道(駒澤大学教授、当学会理事)

※今週末ですが、まだ多少のお席のご用意ができます。事務局までお問い合わせください。

(2) 第6回講座の概要と受講のお申し込み受付のお知らせ。

◆第6回(最終回)講座は、2016年2月20日(土)開催です。◆

講演テーマ：「納得の旅立ちのために」

講師：志藤 洋子(国際長寿センター事務局長)

(講演要旨)

私たち日本人は、人類史上初めての人生90年、100年時代を経験することになります。30年以上続くことになる老後の生き方は、ただいま試行錯誤中。

老いと折り合いをつけながら、自分らしく十分に生きて寿命を終え、納得して旅立つにはどうしたらよいか、最大のリスクである病を知りうまくつきあうこと、命の長さだけではなく、その質を大切にするためには、発想の大きな転換が求められています

そのような状況をうけて、ILCでは「納得できる旅立ちのために」を作成しました。制作過程における私自身の戸惑いや学びを皆様と共有しながら、「良く生きて、良く逝く」ことを一緒に考えることができれば幸いです。

※既にお送りしましたチラシやホームページもご参照ください。

1) 場 所 : 各回とも、東京銀座・資生堂 9Fホール

2) 開催要領 : 各回とも、14時~16時の開催。募集人数は最大45名。

各回の参加費は、会員2500円、非会員3000円。会場にてお支払いください。

※お申し込みは、①氏名、②参加の講座、③連絡先を明記し、eメール、FAXで事務局まで。

※ご家族やご友人などにもお声掛けをお願いいたします。多数の方のご参加をお待ちしております。

(事務局担当 鈴木)

## 3. 第2回研究会合同イベント“丁々発止語り合う会”開催と参加申し込みのご案内

当研究会合同イベントは、学会の5つの研究会が連携し開催する行事であり、第2回は、「シニア社会のリテラシー研究会」(濱口座長)が担当します。当研究会は「コミュニティ」をテーマにシニア社会と私たちの生き方を探求して来ました。そしてこの度その集大成として著書『コミュニティ学のスズメ』を3月に発行します。当著書(参加者には資料として配付します。)の刊行を機に著者たちと皆さんで大いに語り合おうというイベントを企画しました。多数の方の参加をお待ちしています。

1) 日 時 : 2016年3月26日(土) 14:00~16:30

2) 場 所 : 高齢者生活協同組合会議室(第1回と同じです。)

(池袋駅東口北より徒歩6分 | SPタマビル8階)

3) タイトル : “丁々発止語り合う会”

「コミュニティ学のスズメ~ところ定まれば、ところ定まる~」

4) 内 容 :

第1部 14:00~15:10

司会 : 碓正義さん(当学会員・団体役員) ①袖井会長挨拶 ②濱口座長問題提起

③著書『コミュニティ学のスズメ』の執筆者4名によるメッセージ・駒宮淳子さん(当学会員・福島避難者支援活動)「ところ定まらぬ避難者の居場所づくり」・佐藤敬さん(当学会員・主夫)「『よそ者』になった団塊サラリーマン」・杉山由美子さん(当学会員・フリーランスライター)「コミュニティを紡ぐ現場から~ワーカーズコープ、

ナルク～」・福元公子さん（当学会員・独立型社会福祉士）「地域社会を支える新たな役割としての介護保険制度と成年後見制度」

第2部 15:20～16:30

司会：安田和紘さん（当学会運営委員・元目白大学教授） ④各研究会代表者によるコメント・社会保障研究会・「災害と地域社会」研究会・シニアのICT活用研究会・ガバナンス研究会 ⑤会場参加者との交流

5) 参加費：1,000円（資料代、義援金代他を含む）

6) 募集人員：50名

7) 申込み方法：3月23日（水）までに、お名前、連絡先をeメール、電話、FAXで事務局まで。（50名になり次第、締切りさせていただきます。）

8) 会場への略図：参加者には改めて略図を送付致します。

9) 問合せ：事務局まで（担当：島村）

#### 4. 第2回シンポジウム「あれから5年～私たちはフクシマを忘れない～」 概要報告

1) 日 時：2015年11月14日（土）14:00～17:00

2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 33号館6階 第11会議室

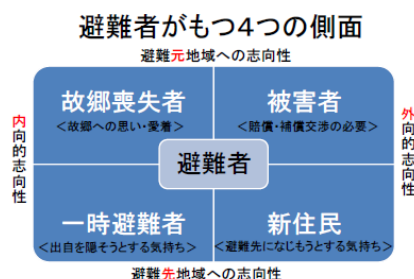
3) 報告者：川副早央里・佐藤 緑・平山 勉

4) コメンテーター：伊藤まり・浦野正樹

5) コーディネーター：長田攻一

2015年3月14日には浪江町の歴史と現在の状況を交錯させることで、避難されている方と復興支援の現状、東京で避難者の支援をされている方のお話を中心にシンポジウムを行いました。第2回目となる今回のシンポジウムは、同じ福島でも「いわき市」で起きた問題に目を向けることにいたしました。なお、今回のシンポジウムは、社団法人シニア社会学会「災害と地域社会」研究会と、「早稲田大学総合人文科学研究センター」の共催という形で開催し、また、『待合室』という作品を制作された映画監督、板倉真琴さんがご参加くださり、映像で記録していただくことになりました。

第1報告者、川副早央里さんは、いわき市が地震・津波の被害を受けながら、双葉郡の町村からの原発避難者を多数受け入れ、町村行政機関まで受け入れており、今回の災害で福島の抱える問題がいわき市に集約されていることを、詳細に説明されました。原発事故によって各地に避難する人は、被害者、故郷喪失者、一時避難者、新住民という4つの面を同時持つこと、また、そこに、賠償金をもらう人ともらえない人の枠が重ねられ、また、置かれた状況、世代や家族内の



の役割の違いなどによって顕在化する側面が異なることなどで、さまざまなコンフリクトが生じる可能性が生まれること、さらに、被災者の持っている記録や写真などを収集する震災アーカイブという活動をされており、それが復興に向けて持つ意義について、事例を紹介しながら報告されました。

第2報告者、佐藤みどりさんは海外支援を行ってきたシャプラニールというNGO組織のメンバーです。「取り残される被災者とともに歩んだ、NGOとしての支援活動」というタイトルで、避難元の町村行政、避難先のいわき市の行政関連組織の活動の及ばない「取り残される被災者」が自ら自立していく経緯を、それらの人びととともに支援をする立場からかかわったという話をされました。このNGOは海外支援が中心の組織なので、5年という期限付きの活動です。彼女は東京に住んでいますが、会津の出身であり、しかも海外での支援の経験もあるというメリットを生かして、200軒の借り上げ住宅に住んでいる他の町村からの孤立しがちな避難者を個別に訪問し、同じ町の避難者同士の交流の場をつくったり、避難者といわき市民との間に生じがちなわだかまりなどが顕在化しないように、相互に顔の見える交流の場（七夕まつり、趣味や運動の教室開催、交流カフェ）を設け、その地道な活動を続け、効果を上げているという報告をされました。

第3番報告者、平山 勉さんは、福島第1原発に近いとともに福島第2原発のある富岡町の住民



で、40代の後半ですが、原発被害に遭った双葉郡8つの町村の若手の住民に声をかけて、地元による地元のための復興を目指して「双葉郡未来会議」という自主的な組織をつくり活動を始めた経緯を説明されました。また、双葉郡から相馬地区にまたがる避難者の悩みや相談に乗る「双相ボランティア」という組織を立ち上げ、帰還困難区域に家を残してきて、自分で区域内に入ることがままならなかったり、行政や東電、その他の人や組織に頼んでもすべて断られて絶望していく人たちのために、家の片づけを手伝ったりする活動をしておられます。その動機は、自分ではどうすることもできない人たちのために自分のできる手助けをすることで、その人たちの笑顔が戻るのを見届けたいという思いです。原発被災者の抱える心の問題が具体的に伝わるお話で、聞く人の心に訴えるものでした。

コメンテーターの伊藤まりさんは、転々と避難する間に両親を亡くし、飼犬をなくして、現在お住いの横浜に至るまでのご自分の体験をもとに、いわき市での浪江からの避難者が避難者であることを隠さざるを得ない心情や、借り上げ住宅でひっそり暮らす人たちの窮状を連想させるのに十分な話をされました。また、それらの人びと同士との交流や地元いわき市の人との交流の場を設けて活動されている佐藤さんの示された写真の中に浪江の知人を発見し、その活動に感謝し、また、平山さんには、浪江の自分の家にも来てほしいと依頼されました。



浦野教授は、川副さんの避難者の担う4つの側面の図式をとりあげ、それがそれぞれの人の異なる立場や世代の違い、あるいは家族内役割の違いによってもたらされるさまざまな感情の違いと、それに基づく誤解やコンフリクトが生じる可能性についての研究の必要性を強調されました。その一方では、それらの問題が解決されるための道筋について、その4つの側面から生じる問題が状況に応じて顕在化する可能性を小さくしていくための、「人間の尊厳」を守り、人びととの間の交流とつながりをつくっていくための地道な努力や組織的、制度的な改善が、現在の日本全体の復興への動きの中で、どの程度持続的、対抗的な力を保ちながら進められていくかが重要であると指摘されました。

このような持続的な力が維持されるために、このシンポジウムのような小さな試みは、今後も続けられていく必要性を改めてフロアの人とともに共有し、次回開催を約束しつつ今回のシンポジウムは締めくくられました。(長田記)

## 5. 研究会からのお知らせ

### (1) 第29回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2016年1月28日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ： ①『出版』の進捗状況の報告  
②『著書』引き取りの対処について  
③ 3月26日(土)研究会合同イベントの具体策について
- 4) 参加費：300円

(島村記)

### (2) 第93回 社会保障研究会 開催のお知らせ

- 1) 日 時：2016年2月17日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：皆川 鞆一(北欧社会研究所代表、元時事通信論説委員)
- 3) テーマ：「デンマークの高福祉事情と政治的苦悩」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室

東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

※ご質問がございましたら、佐藤まで。090-4436-6853 [fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp](mailto:fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp)

### (3) 第9回ガバナンス研究会のお知らせ

- 1) 日 時：2016年2月14日(日) 16:00~18:00
- 2) 発言者：川村匡由氏(社会保障学者・武蔵野大学大学院教授)

- 3) 内 容：「憲法9条の会 各地の活動報告」
- 4) テキスト：なし
- 5) 申込み：地域サロン「ぶらっと」(武蔵野市境3-12-10)  
[Kawamura0515@yahoo.co.jp](mailto:Kawamura0515@yahoo.co.jp)

#### (4) 第28回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2016年1月27日(水) 18:00~20:00
  - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス33号館第11会議室
  - 3) 報告者：小林秀行(東京大学大学院学際情報学府博士課程)
  - 4) テーマ：「復興期のコミュニティにおける調整機能の維持戦略—緊急コミュニティ組織による分業構造を視点として—」
  - 5) 参加費：500円(学生は無料、ただし社会人入学者を除く)
- ※お問い合わせ、参加申込は事務局・福原(fukuhara@jaas.jp)迄お寄せ下さい

#### (5) 第29回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2016年2月25日(木) 18:00~20:00
  - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス33号館第7会議室
  - 3) 報告者：松村 治(早稲田大学総合人文科学研究センター 招聘研究員)
  - 4) テーマ：「心のケア」から「ウェルビーイングの向上」へ—福島からの避難者に対する支援の転換—
  - 5) 参加費：500円(学生は無料、ただし社会人入学者を除く)
- ※お問い合わせ、参加申込は事務局・福原(fukuhara@jaas.jp)迄お寄せ下さい

#### (6) 「シニアのICT活用研究会」の開催について

次回以降の研究会開催は調整中であり、決まり次第あらためてお知らせします。

## 6. 学会機関誌「エイジレスフォーラム」第14号掲載原稿募集

(一社)シニア社会学会の広報誌のひとつである「エイジレスフォーラム」第14号に、会員が執筆された著書をご紹介します。下記の要領でお送りください。

- 過去3年以内に出版された著書または共著を紹介します。
- 応募方法：紹介します著書(表紙画像掲載の為)と書評(著者による内容紹介でも可)を下記あてお送りください。
- 書評文字数：1100字以内厳守
- 書評はeメール(jaas@circus.ocn.ne.jp)で事務局宛お送りください。
- 締切り：2016年3月15日必着
- 著書送り先：〒150-0002 渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階  
一般社団法人シニア社会学会・事務局 担当武者宛て

尚、著書は編集終了後返却いたします。

一般社団法人シニア社会学会・事務局(月・水・金オープン)  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階  
電話&FAX:(03)5778-4728  
eメール:[jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) URL:<http://www.jaas.jp/>